

三極商標庁ユーザー会合に出席して

2011.01.18 弁理士 中村 仁

三極商標庁（日本国特許庁（JPO）、米国特許商標庁（USPTO）、欧州共同体商標庁（OHIM））は、毎年1回、持ち回りで、審査情報の交換などのため会合を開催しており、2010年はJPOが担当で12月に東京で開催された。

これは役所間の会合であって、民間には関係がないのであるが、2010年の会合では、ユーザーの意見を聞く機会も設けようということになり、初めて、ユーザーを交えた意見交換の場が持たれた。私は、今年度、日本弁理士会商標委員会委員長を務めているため、日本弁理士会代表の一人としてユーザー会合に出席する機会を得た。ユーザー側の出席団体は、以下の通りである。

- ・ 日本弁理士会
- ・ 日本商標協会
- ・ 日本知的財産協会
- ・ Business Europe
- ・ FICPI
- ・ INTA
- ・ ATT

オブザーバーとして、韓国特許庁（KIPO）、世界知的所有権機関（WIPO）も出席した。

JPO担当者は、東京で開催される三極商標庁会合の対応だけでも大変な上に、初めての試みであるユーザー会合まで仕切らなければならないため、準備段階からかなりピリピリムードであった。具体的には、ユーザー会合での検討事項について、三極からの出席者は長官や部長といった幹部がほとんどで、実務的な質問では回答できず議論が盛り上がりで会合が失敗に終わる恐れがあるので、できるだけ大所高所からの意見や要望などの発言が望ましいとの強い要請が印象的であった。失敗が許されない役所間の会合を仕切るといのは大変なのだ痛感した。

ユーザー会合は、約2時間、前もって準備して三極商標庁にも送っておいた質問を中心に議論を始め、後は流れに乗ってフリーディスカッションという形式で進められた。議論が盛り上がりなかつた場合も考え、予備の質問もいくつか用意して臨んだが全くの取り越し苦労であり、思いのほか活発に発言がなされ盛り上がり成功裏に終わった。特に、外国のユーザー団体は我々日本のユーザー団体とは違って、お役所からの締め付けなどはないようで、言いたいことを自由に発言し、JPOを困らせるような場面もあったが、そのよう

な自由な発言が会合を活気ある雰囲気にして、会合を身のある有益なものとしてくれた。

会合終了後は、ソニーのご厚意により、「スクエア」というソニー本社内の出来たばかりの特別のショールームに会合出席者を招待していただいた。これはソニーの技術を結集した素晴らしいショールームで、今の流行りを反映してか、3D 技術を使った展示が多いのが印象的であった。

その後、浜松町貿易センタービルに移動して、東京の夜景を観ながら日本ユーザー3 団体主催のレセプションとなった。このレセプションも嗜好が凝らされ、ウェルカムドリンクから、乾杯用の発泡酒、パーティー中のワイン、お土産のお菓子に至るまで、日本製のものが揃えられており、JAPAN を売り込んでいた。

会合では活発な議論が交わされ、レセプションも好評で、最初の試みとしては大成功であったと思っている。聞くところによると、来年の三極商標庁会合（米国ワシントン DC）でも、ユーザー会合が開催されることが決まったとのことである。

商標業界は、ユーザー（出願人、代理人）とお役所（特許庁）で成り立っているのであり、より良い制度を作り上げて業界の環境を良くするために、相互の情報交換、意見交換を活発にしていくことが重要である。このような観点からも、三極商標庁ユーザー会合のような場をより増やし発展させていくことは大切であり、できる限り協力していきたい。